

事業名 大荷田川の水質調査およびホタル発生状況調査
(「里山の自然環境維持と活用」に向けての基礎調査)



1 実施団体 特定非営利活動法人 青梅まちづくりネットワーク

2 担当課 環境政策課

3 実施時期 令和元年6月～令和2年3月

4 参加者

村野公一（青梅まちづくりネットワーク理事長）

大倉十彌也（青梅まちづくりネットワーク副理事長）

大勢待利明（青梅まちづくりネットワーク副理事長）

田中良樹（青梅まちづくりネットワーク社員）

井上務（日本ホタルの会理事／東京ホタル会議副議長）

渡邊勇（環境カウンセラー／青梅・多摩川水辺のフォーラム顧問）

並木すみ江（青梅長淵丘陵・おおにたの自然を守る会代表幹事）

濱田光一（日本デザイン学会正会員／環境おうめ懇話会代表）

柳川貴嗣（株式会社東京有機農家代表取締役）

伊藤慎二郎（青梅市環境部下水工務課課長／※個人参加）

ほか

《※敬称略、順不同》

5 実施場所

〈調査〉 東京都青梅市長淵九丁目 大荷田川上流域周辺
〈シンポジウム〉 青梅市役所

6 事業の目的

青梅市内に残された貴重な里山環境の一つである『大荷田川（おおにたがわ）』において、「水質調査」「放射線量調査」「ホタルの発生状況調査」「ホタルの写真撮影」を行い、その現状についての基礎的なデータを得ること、そして、その調査結果を報告するとともに「里山の自然環境の維持と活用の可能性」を探るシンポジウムを開き、多くの方々とアイデアを共有することを本事業の大きな目的としました。

7 役割分担

・団体の役割

大荷田川周辺における各種の実地調査、および、その結果の整理と考察、また、シンポジウムの内容の構成などを行いました。

・担当課の役割

団体が行う調査についての各種支援、シンポジウムの開催へ向けての広報活動、会場手配、当日の設営と進行などを担当しました。

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

地域に残されている里山について、今後いかにしてその自然環境を維持しつつ、「産業」「観光」「教育」をはじめとする諸分野に資する資源として活用していけるかを考えることは、青梅にとっては重要な課題です。例えば、そこで農作物を作ったり、子どもたちを遊ばせたりするためには、その場所の現状（自然環境の状況、水質や放射線量の状況など）を基礎的な情報として把握しておく必要があります。今回の調査と結果のレポート、および、各分野の専門家が参加してのパネルディスカッションにおいて、様々な企画を実現していこうとするときの指針となるような有用なアイデアが提案されたと思います。

9 目標達成

事業の目標：

「里山を活用する」という企画を考える際に、まず必要となるであろう現状の把握に関し、基礎的な情報をいかにして得ていくかの手法を実験的におこなってみること。

目標の達成具合：

里山の自然環境の最も基礎的な情報である、その地域の特徴的な自然の現状の観察、水質や放射線量の数値データでの把握、地域に住むかたや関連する方々との交流と承諾、より多くの方々との情報共有とアイデア提案の促進といった面で、一定のノウハウを蓄積することができたと考えます。

10 事業の実施内容

- ① 水質調査の実施：大荷田川上流の5地点において、令和元年6月18日、10月10日、12月13日の3回実施しました。
- ② 放射線量調査の実施：大荷田川上流の2地点において、6月18日～21日、11月15～18日の2回実施しました。
- ③ ホタルの発生状況の調査：大荷田川上流の3地点において、6月～8月にかけて計30日あまり、飛翔数のカウントを行いました。なお、この調査に関連して、地域の団体や専門家の団体、子どもたちの団体などとの交流と情報交換、専門家によるレクチャーなども行いました。
- ④ ホタルの写真撮影：大荷田川上流において、6月～7月、飛翔数が多い日などに随時、写真撮影を行いました。
- ⑤ シンポジウムの開催：令和2年1月26日、青梅市役所に於いて、「大荷田川の水質&ホタル発生状況調査報告とこれからの里山を考える」と題したシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは「事業実施に関する基調講演」「各調査の結果報告と考察」「青梅市の環境政策事業の紹介」「里山維持活動の現場についての報告」「各方面の専門家にご参加いただいたパネルディスカッション」などを行いました（参加者数：一般来場者35名、来賓1名、報道3名、登壇者&スタッフ約15名）。

※事業の実施内容の詳細に関しましては、シンポジウムの際に配付した資料などを結果報告資料および参考資料として添付いたします。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	3	3
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	3	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

ホタルの発生状況調査や水質調査など、環境関連の各種調査は、定期的に行わなくては現状が把握できません。そして、それを行っていくためには、地域に密着しつつ調査を担当してくれる人材、および、各種の経費が必要になります。

今回の事業に於いて、基礎的な情報を知るためのノウハウは得ることができたのではないかと思いますので、それをもとに、継続的な調査や活用アイデアの定期的な集積などの作業を、今後は官民が連携しつつ、公的かつ中長期的な事業として実施していただきたいと思います。そうしていくことで、青梅にまだ多く残されていながらも眠らせたままになってしまっている里山を、近い将来には、地域の重要な資源として活用していくことが可能になると思います。

13 その他